

山口大学農学部・獣医学部同窓会（青山会）東京支部

私の軌跡

母校で学び、各界で活躍された同窓の方々から
波乱に満ちた、真摯な軌跡を語っていただきます。

古賀 俊伸

昭和52年獣医学科卒業(V25)、昭和54年農学研究科獣医学専攻修了

30年間の日本獣医師会事務局勤務と獣医界をめぐる出来事

私は、昭和54年農学研究科獣医学専攻を終了後、農林水産省に入省し、動物検疫所で11年間勤務し、その後日本獣医師会の事務局で30年間勤務しました。平成23年から10年間事務局長を務めた後、令和3年に事務局長を退任し、本年3月獣医師会を退職しました。30年間の日本獣医師会の勤務の間、獣医界をめぐる様々な出来事に係ってきました。そのいくつかについて、ここに記したいと思います。

私が農林水産省から日本獣医師会に移ったのは、獣医師法の改正に係る要請、平成7年にアジアで初の開催が決定されていた世界獣医学大会（横浜）の開催準備等、獣医師会事務局の業務が増加したことを受けてのことでした。事務局に入った直後は、「半年に1回」行われていた狂犬病予防注射が昭和60年に「1年に1回」に改められ、その対応をめぐる獣医師会の中で喧々諤々の議論が行われている時期でした。当時の総会では、狂犬病予防注射事業を直接実施している地方獣医師会から様々な意見が出され、なかなか収まりが付きませんでした。30年たった現在でも狂犬病予防注射の実施には立場によって異なる意見があります。一部の研究者からは、「現行の日本の検疫制度が守られている限り、狂犬病の国内への侵入は4万9444年に1回」というリスク分析の結果が発表されています。日本と同様に狂犬病の清浄化が果たされている英国などの国々では予防注射は義務化されておらず、「日本も義務化を廃止すべき。」との議論もあります。しかし、狂犬病という病気の性質を考えると、グローバリズムに流されることなく、このことにはとても慎重であるべきだと考えます。

平成4年、獣医師法が一部改正され、同時に獣医療法が制定されました。

平成7年には、1月に阪神・淡路大震災、3月にオウム真理教事件が発生して国内の世情が不安定となり、海外の獣医師の皆様から多くのご心配の声をいただきましたが、同年9月世界86か国から1万人以上の参加者を得て、これまでにない規模で世界獣医学大会が開催され大成功を収めました。フランスの獣医師会長から”Well-Organized!!”、と肩をたたいてお褒めの言葉をいただき、裏方としてとてもうれしかったことを覚えています。

そのほかにも、30年もの間獣医師会が会を挙げて取り組んできたにもかかわらず、解決されなかった課題として、勤務獣医師の処遇改善、そしてそれに関係する問題としての獣医師の職域偏在等があります。

また、日本獣医師会は獣医学教育の改善に関する問題についても、大学の教育者の方々と連携しながら対応してきました。獣医学教育については、昭和53年度入学者から修士課程積み上げによる6年制教育が開始され、昭和59年度入学者からは獣医学教育課程の修業年限が6年に整備されました。しかし、それ以降も関係者からは臨床・応用関係の教育が不備であるという指摘がなされていました。平成13年には日本獣医師会が調整役となり、獣医学教育のあり方に関する懇談会（座長 黒川 清日本学術会議副会長：当時）を開催して、日本獣医師会会長からの諮問に対し答申を取りまとめいただきました。答申においては、獣医学大学における教員数の不足を改善するには規模の小さい国立大学を再編整備すべきであるとされました。これを受けて各大学が具体的な計画に向けて動き出すかとも思われましたが、地域の事情もあり、再編整備の動きは一頓挫、実現しませんでした。

その後、文部科学省の国公立大学における獣医学教育に関する協議会報告が取りまとめられ、さらに文部科学省高等教育局に「獣医学教育の改善・充実に係る調査研究協力者会議」が設置されて検討が進められました。これを受けて各大学で様々な努力が行われ、共同学部や共同学科等の設置、共用試験や参加型臨床実習の実施など、様々な改善が行われました。

一方、獣医師の卒後教育については、獣医師法において免許取得後の臨床研修が努力義務とされましたが、実情は未だ十分ではないと思っています。長女が産婦人科医として勤務しており、新卒の医師が専門医を取得するまで各段階での実情を知ることができました。公正なマッチングによる研修施設の決定に始まり、研修体制の整備や研修医の収入の確保を含めたシステム全体を見ると、医師と獣医師、彼我の差の大きさを感じずにはいられません。

そのほかにも、最近実現した愛玩動物看護師の国家資格化、マイクロチップ装着の義務化、また国際交流関係、最近のワンヘルスに関する事業など獣医師会での取り組みは多岐にわたりましたが、紙幅が尽きました。お会いできる機会がありましたら、一献傾けながらお話しできればと思います。

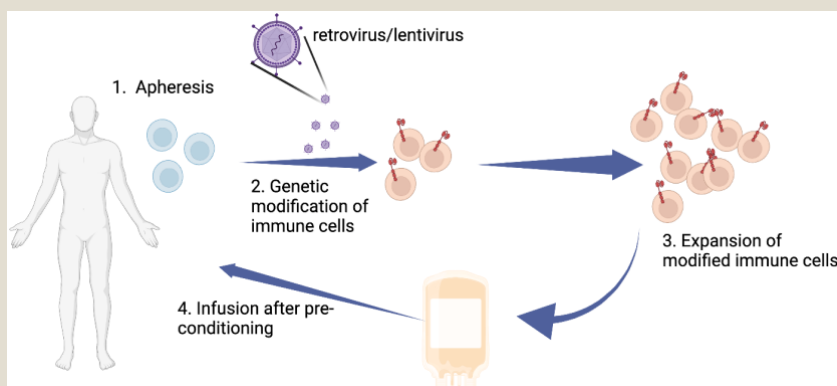


近年、急性骨髄性白血病や多発性骨髄腫といった血液がんを対象とした抗がん剤がいくつも開発されているが、完全に治すことは難しく、再発や薬の副作用などのリスクは依然として高い。帝京大学医学部内科学講座の血液グループ／研究室の田代晴子准教授と白崎良輔講師は、臨床の最前線で治療にあたりつつ、患者さんの負担が少なく効果の高い治療法の確立に向けた基礎研究も行っている。

血液がんのひとつである急性骨髄性白血病（AML）は、成熟した細胞になる前の未熟な段階の細胞に異常が起こり、がん化し異常増殖することで正常な血球が作られなくなる病気。標準的な治療として抗がん剤治療を行うが、がんの種類によっては抗がん剤が効きにくいことがあり、薬が効いたとしても（再発など）根治することは難しい。また、造血幹細胞移植も移植後の合併症や長期的な副作用で苦しんだりする人も少なくない。

そのような中、新たながん治療法として注目を集めているのがCAR-T細胞療法である。患者さんの血液から免疫細胞の一種であるT細胞を取り出し、特定のがん細胞を攻撃するように加工した上で増やし、再度体内に戻して狙ったがん細胞を攻撃させるのだ。日本では急性リンパ性白血病、悪性リンパ腫や多発性骨髄腫に対するCAR-T細胞療法が承認されており、すでに臨床の現場で使われている。

CAR-T細胞の作成と投与



田代准教授は、AMLのがん細胞に特異的に発現するCLL-1というタンパクをターゲットとするCAR-T細胞療法の確立に向けた研究を行っている。「CAR-T細胞療法は患者さん自身のT細胞でがん細胞を攻撃できることが一番の特長で、薬が効きにくい、または移植をしたけれど再発したという場合でも効果があります。」（田代准教授）

CAR-T細胞は「リビングドラッグ」と呼ばれ、わずかな数でも患者さんの体内で生き続けていれば、再発しそうになった瞬間にがん細胞を撲滅できる。しかし、長期間がん細胞と戦っているうちにT細胞が疲れてしまって効果を発揮しなくなってしまうという問題があるため、田代准教授はできるだけ長く生き続けるCAR-T細胞を作ろうとしている。

一方、白崎講師が取り組んでいるのは、多発性骨髄腫を直接治療する方法というよりも、治療効果を高めるカギを探すことに重きを置いている。米国留学中に身につけた「CRISPR screening」という実験ツールを使い、数千万の細胞を解析することで薬剤耐性や治療感受性に関わる遺伝子を見つけ出す。例えば、抗がん剤治療をした細胞の中でどの遺伝子が耐性化を引き起こしているかを特定し、その遺伝子をターゲットとした別の薬（併用薬）を投与して長く抗がん剤が効くようにする。この方法は血液がんのみならず、あらゆるがん治療の効果を高めることに有効であるため、学内の婦人科や他大学の血液内科と共同で研究を行っている。

* 田代 晴子（たしろ はるこ）

帝京大学医学部内科学講座血液グループ／研究室准教授 帝京大学卒業後、同大学院医学研究科血液腫瘍研究室にて博士号を取得。米国Center for Cell and Gene Therapy, Baylor College of Medicineに留学。2021年より現職。

* 白崎 良輔（しらさき りょうすけ）

帝京大学医学部内科学講座血液グループ／研究室講師 帝京大学医学部卒業後、同大学院医学研究科血液腫瘍研究室にて博士号を取得。米国Dana-Faber Cancer Instituteに留学。

(<https://www.teikyo-u.ac.jp/teikyolab/lab011>より)

取材/編集：同窓会事務局 深町 輝康)



母校便り

大動物臨床学教室の小野と申します。佐藤晃一教授より紹介いただきまして、初めて寄稿させていただきます。私は、母校卒業後、山口県農業共済組合で牛の臨床に12年携わり、その後5年ほど愛媛県今治市に新設された岡山理科大学獣医学部に勤務し、今年に入り母校の教員として山口県に戻って参りました。中四国地区は、北海道や九州に代表されるような大規模で盛んな畜産イメージはありませんが、中小規模の農家さんが点在し、その地域の畜産を支えています。全国的に産業動物獣医師の確保が重要視される昨今ですので、母校でも引き続き産業動物分野への進路を取ってくれる学生を増やせるよう尽力していきます。また、地域の畜産規模の大小に関わらず地元で根付く獣医師を育成出来たらと考えています。しかし、進路希望者が少ないことも現状ですので、まずは、これまでの職歴を生かしたOn Farmでの臨床実習を通して山大生の興味を促していければと思います。（共同獣医学部大動物臨床学教室 助教 小野 哲嗣）



農場での外科処置（頬にできた膿瘍を切開しようとしているのが私です）



ジャージー牛の削蹄（鉋とハンマーで蹄の過長部位を切り落としています）

同窓生からの寄稿

近況報告

令和2年3月に東京農工大学を退職しました。退職する時に出席したこの同窓会で、退職後の就職先がなかった私に元北里大学教授の前原大先輩から、コーセー美容専門学校の衛生管理講師を紹介され1年間務めました。しかし退職して年金生活となった私には、東京で生活する家賃や食費などが高いこと、また東京では新型コロナウイルスの感染率が高く、病院にも行けない人が多かったことや、当時のコロナ流行状況下においても、何が何でも東京オリンピックを開催するという日本政府と東京都の方針から、危険回避と生活防衛のため令和3年4月富山市に転居いたしました。コーセー美容専門学校講師の仕事は、山大獣医学科の後輩である広瀬徹氏（同窓会で講演された広瀬治子氏の夫）に引き継いで頂く事が出来、紹介されたお仕事を山口大学で継続することが出来ています。しかし、私が就任1年で辞めるとのことから、当時の副校長衛藤達也先生や、特に岩橋槇夫校長からは、後任が決まるまで辞めて頂くことは認められないとまで言われ、山大獣医学科の後輩で、同じ研究室で師弟関係のあった広瀬徹氏に無理やりお願いし後任の講師をやってもらっています。広瀬氏は、専門学校の学生にとっても人気が高く、今も元気に一生懸命先生を続けてくれています。

私はコーセー美容専門学校講師を務めた経歴と獣医師の資格を持つことから、現在の住居から歩いて3分の場所にある富山ビューティーカレッジに自ら売り込んで、採用して頂きました。また、ビューティーカレッジの紹介で公益財団法人理容師美容師試験研修センターから依頼を受け、富山県と石川県の理容師美容師国家試験実技試験の試験管や筆記試験の監督官をやらせてもらっています。私の担当している衛生管理という科目は不特定多数の人が集まる理容所や美容所から感染症が蔓延することないように、いかに消毒を徹底するかを理容師美容師が身に着ける科目です。

今日こうして私が元気に生活していただけるのは、山口大学同窓会員であったからです。これからもこの同窓会を盛り上げて、ずっと継続して頂きたいと思っております。同窓会の皆様ならびに幹事の皆様、特に深町先生、今後とも何卒よろしくお願い致します。

追伸：今年の獣医師国家試験は難しく、合格率は過去5年間で最低の69.9%であったにも関わらず、山口大学共同獣医学部は94.3%と全国の獣医系大学でトップを示しました。このような優秀な後輩諸君が卒業して活躍されることを願っており、卒業後は同窓会でお会いできることを楽しみにしております。

（昭和52年卒業（V25） 白井 淳資 （元東京農工大学 共同獣医学科 教授、富山ビューティーカレッジ講師））

今回さ、事務局の吉田恵子さんからバトンもらっちゃった(誰かが斎藤章さんに渡したバトンがなくなっちゃってるみたい)1993年3月に農芸化学科の食品化学研究室卒業した中嶋久士だよ。研究室はスポーツ好きや飲み会好きが多いという理由で選んだんだと思うんだよね。おかげで今でも同世代の先輩や後輩とよく飲む機会があるんだ。会報でも同窓会って名前にしてるけど、実際はただ飲み会報告してるだけなんだよね。研究室の先輩が役員に昇進したから、今回も飲み会報告する予定だったんだけど、生成AIブームで仕事が忙しくて飲み会を企画できず、ここで登場しちゃってる。

前置きが長くなっちゃったけどさ、大学卒業後は他大学の大学院に進んで、製薬企業の研究所で高脂血症治療薬や糖尿病治療薬などの創薬研究や育薬プロジェクトに携わってきたんだ。50才直前になんとかAIスタートアップ企業に転職して、今に至ってるよ。

最近、ChatGPTという言葉を目にしない日はないくらい生成AIが話題になってるんだけど、間違いなく仕事の生産性向上に大きく寄与して、これまでのやり方が変わると思うんだよね。簡単な例として、製薬企業での照会事項対応があるんだよ。使える自社データベースさえ作っておけば、回答の下書きはGPTに任せて、参照したレポート作成部署に校正してもらえば、楽に作れると思うんだ。これまでの当たり前が当たり前ではなくなると思うんだ。実は、画像生成AIや動画生成AIもすごく進んで、これからの変化が楽しみだよ。斎藤章さん、バトン探してね！(生成AI(GPT4.0)に大学生が話している感じで校正してくださいとお願いしました。)

(平成5年卒業(C23) 中嶋 久士)

山口大学農学部・獣医学部同窓会東京支部 同窓会開催のご案内

本年11月に4年ぶりの同窓会を開催いたします。

これまで会場として利用していた赤坂のホテルは会議・宴会の業務が終了となるため、今年から会場を変更いたします。現在検討段階のため、以下に概要のみ記載いたします。詳細は改めてお知らせいたします。沢山の同窓生のご参加をお待ちしております。

・日時: 令和5年11月25日(土) 14:00～18:00(総会・講演会: 14:00～16:00、懇親会: 16:00～18:00)

・場所: ホテルグランドヒル市ヶ谷(予定) <<https://www.ghi.gr.jp/index.html>>

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町4-1

JR中央・総武線 「市ヶ谷駅」徒歩3分

都営新宿線 「市ヶ谷駅」4番出口より徒歩3分

東京メトロ有楽町線 「市ヶ谷駅」7番出口より徒歩3分

東京メトロ南北線 「市ヶ谷駅」7番出口より徒歩3分

・会費: 12,000円(予定)

・講演会: 前田健先生 国立感染症研究所 獣医科学部 部長(山口大学名誉教授)



山口大学獣医学科 創立80周年記念事業

山口大学獣医学科は、2024(令和6)年をもちまして山口高等獣医学校の設置から創立80周年の記念すべき年を迎えます。同窓生の皆様と慶びを分かち合い、山口高等獣医学校から共同獣医学部へと歩んできた道を振り返り、その軌跡を明らかにすると共に、今後のさらなる前進とさらなる飛躍を期し、記念事業を開催したいと考えています。記念式典への皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時: 2024(令和6)年10月26日(土)

場所: かめ福オンプレイス(山口市湯田温泉4-5-2) ※昨年9月OPEN

内容(予定): 記念式典、特別講演会、記念誌発行ほか



メール配信にご協力をお願いいたします！

皆様のメールアドレスを事務局まで。

BCC配信ですのでアドレスは公開されません。

また、同窓会ホームページからもご登録できます。

<https://yamaguchiagrivet.wixsite.com/tokyo>

会長 深町 輝康(V16,S43卒): smile-vet@chic.ocn.ne.jp

事務局 桑野 昭(V21,S48 卒): kuwa5ayt@green.ocn.ne.jp

久保田 徹(C2,S47卒): tkubota39@m7.gyao.ne.jp

吉田 恵子(V48,H14卒): keicho@mth.biglobe.ne.jp

平川 由佳(V53,H19卒): yspiyopiyo@yahoo.co.jp

編集後記

いかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルスが5類に緩和され、街に賑やかさが戻ってきた気がします。私は久しぶりに、GWに大阪へ行き、山口大学の旧友達に会うことができました。何年経っても、旧友に会うと当時のテンションに戻るの不思議であり幸せでした。(事務局 平川)